



南房総の風し

[発行]
南房総教育事務所 指導室
平成25年12月27日
第4号

「話し合いが深まらない。」と、道徳の時間に困り感をもっている若年層の先生方が多いのではないのでしょうか。話し合いは、本時のねらいの根底にある道徳的価値について、児童生徒に内面的な自覚を深めさせる（「なるほど、そうだったのか」と気づき、「これからはこうしよう、こうするといいな」という思いを深めさせる）ために大変重要です。そこで、本号では、道徳の話し合い場면을充実させるポイントについてまとめてみました。

《道徳の話し合い場면을充実させるための主なポイント》

その1 座席の配置や形態を工夫しましょう！

- ◆ 座席の配置の工夫（「コの字型」「円形型」「対面型」など）
- ◆ グループやペアによる話し合い

自分の考えを安心して話せる雰囲気が大切です。お互いの顔が見えると話がしやすくなります。配置を変えるだけで授業に変化がでできます。

その2 発問を工夫しましょう！

- ◆ 年間指導計画に記載されている中心発問（最も考えさせたい場面での発問）等が、児童生徒の実態に即した発問内容かどうか確認しましょう。（ねらいに迫るためにどんな問いにするか、吟味をしましょう。）
- ◆ 下記のような、問い返したり、切り返したりする発問を有効に活用しましょう。

* 表面的な意見が続く時は...
 (発問例) 「どうして、こんな気持ちになったのかな？」 「そういう気持ちだけなのかな？」
 * 同じような意見が続く時は...
 (発問例) 「それで、本当によかったのかな？」 「みんながそんな気持ちになれるのかな？」

その3 書く活動を上手に取り入れましょう！

- ◆ 書くことは、一人一人が自分なりの考えや思いをもつ大切な活動です。
- ◆ 発問ごとに何でも書かせるのではなく、活動のねらいを明確にして書く活動を設定してください。（1単位時間で1～2場面程度）

〈書く活動が予想される場面〉

- * 「自分を見つめさせ、深く考えさせたい」場面
- * 「自分の考えを改めて整理させたい」場面
- * 「後で活用するために残しておきたい」場面 など

その4 板書は価値に迫るために構造的に書きましょう！

- ◆ 簡単な発問は一人一人の顔を見つめながら、テンポよく短時間で扱い、主だった意見をまとめます。
- ◆ 十分に考えさせたい中心的な発問は、じっくりと、多様な価値観を出し合わせ、整理してまとめます。

《心の動きがわかる板書で、価値に迫っていきましょう！》

- * 時系列で書き、登場人物の心情の変化や、自分たちの考えの変容をつかませる。⇒場面絵やキーワード短冊の活用
- * 葛藤場面での意見の対比がわかるように書く。多様な考えを類別に書く。⇒ネームプレートの活用・色チョークの有効活用
- * 中心部分を浮き立たせる。

その5 子供の出番ができるだけ多くなるように工夫しましょう！

- ◆ 教師は、話し合いをコーディネートして、ねらいとする価値について、多様な価値観を出し合わせます。
 ⇒ 子供たちの意見を大切に、教師が一方的にまとめたり、価値を押し付けたり、話しすぎたりしないように心がけます。
- ◆ 「しゃべりすぎ」と感じる時には、自分の授業を録音し、発言内容などを客観的にチェックするとともに、授業全体を「セルフチェックシート」（事務所作成）をもとに自己評価することをお勧めします。

(担当 安房分室 秋山里和)